

さる地蔵 山形県

むかし、あつたけど

むかし、あるところに、おもちの大好きなおじいさんがいました。

ある日のこと、おじいさんは、お弁当におもちを持って山に木を切りに行きました。お昼になったのでおもちを食べて、横になって休んでいました。口のまわりがおもちの粉で真っ白でした。そこへ、さるたちがやって来て、寝ているおじいさんを見ていいました。

「やあ、こんな所に地蔵さまがいるぞ。むこうに持って行っておまつりしないか」

「そうだな」

さるたちは、手車をこしらえて、おじいさんを乗せました。

川まで運んで来ると、さるたちは、

川越猿のへんのごぬらすとも 地蔵のへんのごぬらすな

エンヤラ エンヤ

川越猿のへんのごぬらすとも 地蔵のへんのごぬらすな

エンヤラ エンヤ

と歌いながら川をわたりました。

川向うに着くと、おじいさんをすわらせて、

「やあ、ええ地蔵さまだ。お金でも上げておがもう」といって、お金をどつきりお供えして、行つてしまいました。おじいさんは、そのお金を持って家に帰りました。

おばあさんとふたりでお金を数えていると、となりのへちやくちやばあさんがやって来ました。

「あれ、あれ。この家はどうしてこんなにお金がもうかつたんだ」

「おじいさんが、おもちで口のまわりを真っ白にして寝ていたら、さるが来て、地蔵さまだといつてお金を供えてくれたんだ」

へちやくちやばあさんは、急いで家に帰ると、

「じいさん、じいさん。もちを持って山へ行け。ほして、口のまわりを白くして休んでいろや」といいました。そして、おじいさんが行くともいわないのに、むりやり山へ行かせました。

となりのおじいさんは、しかたなく山に行つて、口のまわりを真っ白にして休んでいました。すると、さるが来ました。

「あら、こんな所に、まだ地蔵さまがいるぞ。むこうに持って行っておまつりしよう」
「そうしよう」

さるたちは、手車をこしらえて、おじいさんを乗せました。

川まで来ると、さるたちは、

川越猿のへんのごぬらすとも 地蔵のへんのごぬらすな

エンヤラ エンヤ

川越猿のへんのごぬらすとも 地蔵のへんのごぬらすな

エンヤラ エンヤ

と歌いながら川をわたりました。となりのおじいさんは、おかしくて、おかしくて、「へ、へ、へ、へ」と笑ってしまいました。さるたちは、

「あら、ら、ら。こりやあ、地蔵さまじゃない。どこかのじいさんだ。さあさ、たいへんだ。早く、ぶん流してやれ」といつて、おじいさんを川に落としました。

となりのおじいさんは、お金をもうけるどころか、ようやくのことで川から上がって来たということです。

どんべからんこ ねっけど はあ

原話…『関澤幸右衛門昔話集』野村純一編
再話…村上郁